

最近の北海道情報処理 シンポジウムの話から

鈴木 恵二
北海道大学

この記事が読まれているところには、北海道はすでに早い所では、紅葉が始まっている頃になっているかと思うが、この夏の北海道の話題といえば洞爺湖サミットが開催されたことであろう。サミットの会議自体はほんの数日間のことであったが、ご存知のとおり最大規模となった警備体制は、ほぼ1カ月前から全警察官と警察車両が全国から道内入りし、検問場所や警備位置の確認から始まり、高速道路上でVIPを乗せて走るための隊列走行の予行演習など、入念な準備、予行演習が繰り返されて本番を迎えていたようである。実際のところ、広い北海道から見れば、この物々しい警備体制を感じ取れたのは札幌市の一部と会場周辺地域であり、仕事の都合上函館と札幌をしょっちゅう行き来した筆者のような立場でなければ、この記事を読まれている皆さんと同じように、北海道民もまた、テレビや新聞でしかサミット開催の様子は伺い知れないものでしかなかったのは事実である。

このサミットの例に漏れず、北海道の広さはとにかくいろいろな活動を行う上で、悩みのタネである。北海道支部の目的は「北海道地区において、情報処理に関する学術、技術の進歩発展をはかり、会員相互および関連学会との連絡、研修の場として、学術文化の発展に寄与することを目的とする」と規約に記載されているが、この目的にかなう活動が十分に行われているかと問われれば、いささかうつむかざるを得ないのが正直なところである。北海道の情報処理産業の拠点としてはほぼ札幌に集中している一方、学術的拠点となる大学や高専等は、南は函館の公立はこだて未来大学から、北は稚内の稚内北星学園大学まで、道路上の距離にして約560キロメートル離れるなど広域に分散している。

このように分散された拠点間の相互交流を進めるために、近年「北海道情報処理シンポジウム」を道内各拠点で

開催するようにしている。このシンポジウムは従来、電気関係学会北海道支部連合大会として他学会支部とともに開催していた講演会を本支部主催の独立した行事として、平成5年から開催してきているものである。平成18年度には、公立はこだて未来大学で、昨年は札幌の私立大学である北海道工業大学で開催した。この記事が出ているところには終了しているが、今年は稚内にある稚内北星学園大学で開催する。このシンポジウムでは、近年、発表者と会員が十分な議論を行えるようにと、すべてポスター発表形式としている。

またこのシンポジウムの発表者を対象に、平成18年度から次の表彰を行っている。研究奨励賞、学術研究賞、技術研究賞、技術開発賞、優秀ポスター賞の5つを設定している。研究奨励賞は学部卒業後10年未満の発表者を対象として5件まで表彰とし、学術研究賞は共著者も含め2件まで表彰している。技術研究賞、技術開発賞は実用的意義を重視し、特に後者は企業等団体を表彰対象としている。これらの賞をここ数年で受賞した研究の中から、いくつかをこの場を借りてご紹介したい。

技術研究賞においては一昨年がマリンITに関する研究、昨年度は観光情報に関する研究と北海道の特色といえる研究が受賞している。

「IEEE802.11」によるマリンブロードバンドの構築」和田雅昭（公立はこだて未来大学）、畑中勝守（北海道東海大学）、宮下和士、鉄村光太郎（北海道大学）は、津軽海峡を行き来するフェリー上にネットワーク中継基地局を設置することによって、津軽海峡をカバーするブロードバンド帯を形成しようとするものである。この研究により、これまで陸送中はトレースされているトラック輸送物資がフェリーに乗り込んでしまうとその追尾が途切れてしまう問題の解決や、フェリー航路周辺で漁業活動を

情報処理北海道 シンポジウム2008

日時:平成20年9月19日(金)

会場:稚内北星学園大学(北海道稚内市若葉台1丁目2290番28)

特別講演

演題/「条件不利地域と稚内地域ネットワーク」

14:40~15:40

講師/金山 典世 氏(稚内北星学園大学 教授)

講演発表
申込締め切り
8/15(金)

一般講演

■発表形式/全発表90分のポスターセッション形式

■発表原稿形式/申し込み方法/詳細は情報処理学会北海道支部のサイトを参照ください

<http://hokkaido.ipsj.or.jp/pukiwiki/>

■原稿申し込み締め切り日/平成20年8月15日(金)

■表彰及び論文推薦/全ての発表の中から次の賞を選定し、表彰します

(1)研究奨励賞 (2)学術研究賞 (3)技術研究賞 (4)技術開発賞 (5)ポスター賞

◎表彰式は9月19日(金)16:00より行います

懇親会

日時/平成20年9月19日(金) 17:00~

場所/稚内北星学園大学内

Info-Hokkaido2008

主 催/情報処理学会北海道支部

事務局/情報処理北海道支部

〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目北海道大学大学院情報科学研究科内 TEL/FAX 011-776-3077

e-mail hokkaido@ipsj.or.jp HP <http://hokkaido.ipsj.or.jp/pukiwiki/>

図-1 北海道情報処理シンポジウム2008 稚内開催のポスター



図-2 マリンブロードバンド研究における海底地形図作成のための機器

営む漁船群をネットワークで結ぶことが可能になるなど、今後の発展が期待される研究である。この研究グループはさらに、マリンITとして、複数の漁船の魚群探知器を活用し、沿岸の海底地図を取得する方法を研究するなどの活動を行っており、今後が期待される。

観光産業もまた、北海道にとって重要な産業である。昨年技術研究賞を受けた「風評被害対策に向けたメディア分析に関する研究」長尾光悦、須藤一弘(北海道情報大学)、山下晃弘、松村有祐、大内 東(北海道大学)では、地震や風水害などによって、被害地区とは離れた観光地が受ける風評被害の影響を取り上げ、特にインターネット上に流れたニュース記事などから、風評被害を引き起こす表現がいつどのタイミングで流れ、またいつぐらいまで繰り返し流されるかの分析を行っている。この研究グループは「観光情報」をテーマとして掲げ、風評被害の起こるメカニズムや、こうした被害を食い止める方策などについての提案等を行っており、観光産業の発展に寄与する活動を行っている。

昨年の研究奨励賞では、公立はこだて未来大学からロボットの自律化に関する研究2件、北海道大学からはSOMの応用に関する研究2件とITアプリケーションの開発に関するもの1件が受賞となり、各地各大学におけ

る学生会員の努力が伺えるものとなっている。

北海道では官民ともにあまり明るい話題が聞こえなくなってきたが、旭川にある旭山動物園は相も変わらず人気が高いようである。旭川にある情報関連産業もこの動物園に絡めた仕事で大手企業と組んで発展に向けた努力を行っていると聞いている。次のシンポジウムはできれば旭川で開催し、こうした企業の発表も交えたものにしていきたいと願うとともに、読者の皆さんにも来年のシンポジウムでお会いできれば幸いである。

(平成20年8月14日受付)

○ 情報処理学会北海道支部 Web ページ

<http://hokkaido.ipsj.or.jp/pukiwiki/>



鈴木 恵二 (正会員)

suzuki@complex.eng.hokudai.ac.jp

平成5年北海道大学大学院博士後期課程修了。同年同大助手、平成7年同大助教授。平成12年公立はこだて未来大学。平成16年同大教授。平成19年より本会北海道支部長。平成20年北海道大学、現在に至る。